立教英国学院通信

第二七九号　二〇一八年　七月十六日
発行者　立教英国学院
RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND
GUILDFORD ROAD, RUDGWICK RH12 3BE
http://www.rikkyo.co.uk

# 二〇一八年度入学始業礼拝

開花日未定録

高等部二年一組　大石　桜子

いつからだろうか。こんなにも時間が過ぎていくのを早く感じ始めたのは。

大きなバスに身を委ね、いつの間にか眠っていた私の視界には目を覚ますと、あの一か月ぶりに見える大きな学校の門が映されていた。またいつもと変わらない景色を横目に、ぼうっとした頭を覚まそうとしていたその瞬間だった。

「お帰りなさい。一年ぶりだね。」

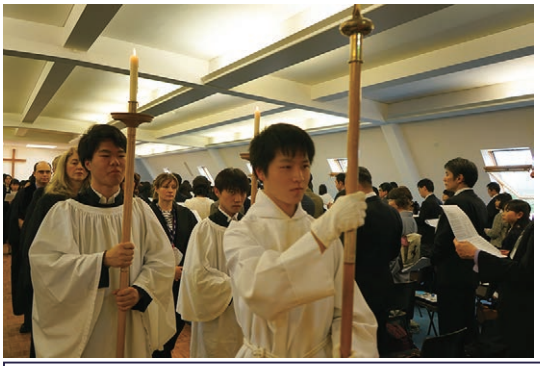
誰かが私に言ったのではない。かといってこの声が聞こえなかったわけでもない。私はこの声を確かに耳ではなく、目で感じたのだ。そう、私たちの進級のこの時期はいつも誰よりも早く祝ってくれる桜の木がそこに立っていた。

「H2-1」と貼られた紙に自分の名前を見つけた。急に迫ってきた高校二年生と言うものを私はすぐに納得することができずにいた。

しかし入学式を終え、見かけた新しいクラスのメンバー、後輩。そして赤いネクタイを身に付けている先輩。彼らはキラキラしていてまるで小さなつぼみが一気に花を咲かせ、ひとつの大きな木となっているように私には思えた。

一緒にきれいに咲きたい。まだ小さなつぼみだとしてもいつかは絶対に咲くことができる。高校生活残り二年という短い時間を大切に、日々小さなことにいっぱい力を注ぎ、小さな事でも大きな意味があるものへと変えられるような存在になりたい。そして桜の木の中で大きな実を結ぶことが出来るよう、精一杯多くのことをこなし、高校二年生としての全力を尽くしたいと思った。

そしてまたこのシーズンがやってきたときに、大きな花を咲かせられるよう、あっという間に駆け抜けていってしまう時間を有意義に、今という瞬間、この一年を一生懸命に過ごしていこうと思う。



目次


| | |
|---|---|
| ２０１８年度入学始業礼拝・春休みの作文 | １ページ |
| １学期の行事 | ２ページ |
| 球技大会 | ３ページ |
| 立教英国学院の国際交流 | ４、５ページ |
| アウティング | ６ページ |
| ウィンブルドンテニス観戦 | ７ページ |
| チャプレンより | ８ページ |

# ２０１８年度第１学期　行事

## ４月

８日　入学始業礼拝

９日　健康診断・オリエンテーション

１０日　高等部実力テスト

１５日　部活動・委員会紹介

２０日　Collyers College スポーツ交流 at Collyers College H2 H3

２１日　球技大会

２４日　午後ブレイク・Bluebell Walk
H3 マーク模試開始

２５日　バレーボール部　Epsom Cup 戦

２８日　Collyers College　剣道体験・日本文化紹介交流　本校にて H2 H3

## ５月

２日　社会科フィールドワーク M3 ９日　M2M3

３日　St Nicolas Flower Festival 参加 P6

４日　Japanese Evening

６日　生徒会主催　Guildford Shopping

１１日　H3 記述模試開始
アウティング　P6 ～ H3

１２日　ケンブリッジ英検 FCE
バレーボール部 Epsom Cup 戦

１４日　英国大学進学セミナー　H1 H2

１７日　St Edmund's Primary School より児童来校交流

１９日　OPEN DAY 本部・係説明会　H1 ～

２０日　漢字書き取りコンクール
サッカー部　ロンドン社会人チーム戦

５月２６日～６月３日　ハーフターム・ホームステイ

## ６月

２日　英語検定一次試験

４日・９日　ケンブリッジ英検 KET PET

９日　OPEN DAY フリープロジェクト企画の説明会

１０日　剣道部 Ingfield Manor School Fete 参加　バスケットボール部帝京ロンドン戦

１２日　立教大学説明会　H1 ～

１７日　漢字検定

１９日　テニス部 Sussex Cup 戦

２６日～３０日　期末考査

## ７月

１日　英語検定二次試験

２日　ウィンブルドン見学

３・４日　答案返却

５日　スクールコンサート

７日　終業礼拝・児童生徒帰宅

７日～１４日　１学期末のホームステイ
特別補習 H3　短期留学 M3 ～

# 球技大会

**爽やかな陽気に恵まれた四月二十一日、球技大会が行われ、今年は黄色とピンクの二色に別れて優勝を争いました。綱引きや借り物競争などの全体競技、バレーボールやバスケットボール、ソフトボールなどの各競技、そして応援合戦。どの場面においても、一瞬一瞬を楽しみながら全力で取り組む児童・生徒の様子が見られました。**

## 最後

高等部三年二組　落合　凜

今日、最後の球技大会が終わった。学生らしい行事がまた一つ終わりを迎えてしまったのだ。高校2年生の始め、各行事あと2回ずつしかないな、と思っていたのに、気づけば球技大会は残り0回になってしまった。人生でおそらく最後の球技大会は、私たちに何を残してくれたのだろうか。

私はそもそも、運動が好きなわけでも得意なわけでもない。それが義務だとされた場合には普通に行うが、自由な時に運動しようという気持ちにはならない。けれど、球技大会は好きだった。どうして好きなのかは、今回立教英国学院のみんなが教えてくれた。一体感。友情。いつも一緒にいる友達が「仲間」になる瞬間。その一つ一つを心から感じられて、その感覚に浸ることができるのは、球技大会だからだ、と。みんなで同じ色のTシャツを着たり、同じ行動をとったり、敵同士でもお互いのTシャツにメッセージを書き合う。普段あまり関わることのない人から、頑張れ！ナイス！と声をかけてもらう。そんなことこれから先あるのだろうか。いや、もうきっとないだろう。

私は「仲間」が好きだ。「仲間」は同じ時間や感覚を共有し、その存在は力を与えてくれる。今までただの知り合い程度だった人が「仲間」になる瞬間を今日たくさん体験することができた。これまで感じたことのない感動を、身体中で感じることもできた。きっと最後の球技大会は、私にとって「仲間」がどんなものなのかを、その大切さと共に教えてくれたのだろう。バスケも、応援合戦も、全体競技も、今日みんなで経験した全てが、私の人生の大事な思い出になった。これからもっと年を重ねていくときに、私は「友達」でなく「仲間」を探して生きていきたい。

## 球技大会

高等部一年二組　秋葉　優衣

4月とは思えない暑さの中、私は太陽に照らされながらテニスコートの隅でボールを投げていた。

球技大会の種目を選ぶとき、「ドッジボールはつまらないよ」と言われた。でも、運動が苦手な私にはやりやすいだろう、と考えて選択した。球技大会当日、ドッジボールはやはり人があまり通らない所で行われ、その時点で「白熱した戦い」などとはほど遠いものになるだろう、と思った。しかし、試合が始まると私が予想していた景色とは違う景色が広がっていた。

球技大会の前に行った練習試合。私たちのチームは勝利し、本番でも勝てると思っていたが、本番になると練習のようには体が動かない。ボールをキャッチしようとは試みるが高かったり、速かったりしてなかなか取ることができない。それは、とてももどかしいものだった。そのとき低いボールが飛んできた。私は取れると思い、手を伸ばした。と同時に「バン」と音がして私は外野に出ることになった。チームのみんなもボールを相手に当てられないまま、ただボールをぶつけられるばかりで午前の試合は負けてしまった。悔しかった。

午後の試合は勝てるかどうか不安だった。しかし笑顔で「頑張ろう」という先輩の姿を見たらその気持ちは消えていった。きっとチームのみんなもそうだったと思う。そのためか、午後の試合はとても順調に進んだ。速いボールもどんどん取り、相手のチームをどんどん当てていく。それは国語の授業で習った「痛快」という言葉がよく似合った。試合終了を知らせる笛がなったとき、私たちは飛び跳ねて喜んだ。

笑顔でハイタッチをしているときドッジボールを選んで良かった、と強く思った。

# 立教英国学院の国際交流

立教英国学院が大切にしている国際交流活動。今学期もジャパニーズ・イブニングに始まり、ハーフターム中のホームステイ、短期交換留学など様々な行事が実施されました。いくつかの行事は地域のメディアで紹介されることもありました。

自国の文化とは違う文化に触れることは新鮮で刺激的なことですが、それと同時に母語とは違う言葉でコミュニケーションを取ることは難しく、ただ単純に楽しい！ということにはならない様子です。自分の伝えたいことを伝えられないもどかしさを味わったり、なかなか輪に入っていくことのできない不甲斐なさを感じたり、少し苦い国際交流を経験する者もいます。でも、それらの経験は成長につながるステップ。その証拠に、行事を経験したあとの児童・生徒たちは、いつだって少しだけたくましく見えるのです。

## Forest School 短期留学

「はじめてのハグは」

高等部二年一組　木藤　直己

二日目の今日は一限目から待ちに待った体育の授業だった。何をやるのか、と楽しみに体育館に行ったらなんとクリッケットだった。人生で初めてのクリッケットだったのですごく嬉しかった。ルールは全く知らなかったが、やっていくうちに覚えていった。体格のいい生徒が大勢いる中、僕は他の四人の立教生とともに守備についた。

初回の守りの中盤で僕のところにライナー性のようなフライが飛んできたのでその打球を取ったら、みんなからめちゃくちゃ歓声が上がって、ある一人の生徒が僕のところに駆け寄ってきてハグをした。初めてイギリス人とハグをしたので「こうやってハグをするのか」と歓声の余韻に浸りつつ、みんなと一緒に交流できた喜びを噛み締めた。

二時限目は苦手科目の数学。昨日は全く数字を使わない授業だったが、今日は、数字とパソコンを使って問題を解いた。やったことのある範囲だったけれど、バディーの助けも借りて問題を一緒に解いた。昨日の数学の授業よりは楽しかった。

三時限目は生物、四時限目は物理でどちらも理系科目で攻めかかってきたため辛い時間が続いたが、本日最大の山場を乗り切ることができた。五時限目は、英語の授業だったが、みんなテストがあったため自習をして一日を無事に過ごすことができた。

今日は二日目ということもあり、昨日よりリラックスして接することができた。昼休みには、みんなでバレーボールをした。結果は、相手の身長が高すぎて惨敗。それでも、有意義に過ごせたと思う。もし明日もやるのだったら絶対に勝つ気持ちで臨みたい！

## ジャパニーズ イブニング 写真特集

## A visit from St Edmund's Primary School, Godalming

St Edmund's Primary School
との交流会

On Thursday 17th May, thirty-one year 3 students from St Edmund's Primary School came to visit Rikkyo to learn about Japanese culture. They had already learned quite a lot about Japan before they had arrived, and were able to tell us about Golden Week, Children's Day and the importance of carp flags.

In the library, the H3 students delivered a PowerPoint presentation and a quiz. Afterwards, the students split into groups and we taught St Edmund's to count to 10, and how to write their names in Japanese. They were also introduced to kendama, koma, fukuwarai,juggling, and manga drawing.

The H2 students put on a display of Double Dutch skipping, and then helped the young visitors to try the skipping for themselves. Upstairs, a kendo demonstration took place and the students were taught how to hold a bamboo sword, and how to swing the sword at their opponent. This session finished with some J-Pop music and dancing.

Before lunch, St Edmund's spent time answering questions which some of the P&M students had prepared. Our students also demonstrated origami and helped their visitors to make something to take home with them. In the final part of the morning, St Edmund's put on Japanese jackets and were taught how to bow and how to say 'Good morning' and 'Goodbye'. The M2 students finished the morning by singing a traditional Japanese song.

After the visit, Mrs Robson from St Edmund's wrote to say, 'Thank you so much for organising all the activities today. The children had a great time and learnt so much.' We have been invited back to St Edmund's and hope to take some students there in the autumn term.

# JAPANESE EVENING

### ジャパニーズ・イブニング

高等部二年二組　鶴岡　麗良

私が立教のジャパニーズ・イブニングを経験するのは、これで三度目です。一年目だけは「昔遊び」でしたが、昨年と今年は「折り紙」を選びました。理由は特になかったのですが、小学生の時から「鶴が折れない」と言われていたので、そこから脱却したかったというのも少しはあったかもしれません。

鶴が折れないところからもにじみ出ている通り、私は折り紙ができません。しかし昨年も「折り紙」だったことから、企画長になっていました。自分でもおかしくて、聞いた時は思わず笑ってしまいました。

準備期間はわずか二日間。不安も大きかったのですが、優秀なメンバーたちのおかげで、なんとか景品を折り終え、教えるメニューも決まりました。

ジャパニーズ・イブニング当日、自分が企画長なのだ、と改めて感じ、緊張していました。高校二年生で机を並べていると、後輩たちが寄ってきて手伝ってくれたのですが、頼りない私をそっと支えてくれるその優しさが嬉しすぎて感動してしまいました。

お客さんは昨年より多めに来てくれました。友達同士や家族連れが多く、手裏剣や鶴、いくつかを組み合わせて作る箱など、日本らしいものが人気でした。説明はとてもつたなかったと思いますが、伝えようと思う分だけ英語が伸びるのかな、と感じました。

これが私の最後のジャパニーズ・イブニングでしたが、後輩たちが作る来年のジャパニーズ・イブニングがとても楽しみです。

### 剣道が好きになったジャパニーズ・イブニング

中学部一年　玉越　麟之介

剣道には全く興味がなかった。父がテレビで剣道の試合を見て楽しんでいる意味がわからなかった。たとえ、自分が面を打てて勝てたとしても、逆に打たれて負けたとしても嬉しくも悔しくもない。この学校で剣道を始めたのも、暇だった時に先輩に誘われたからというだけ。

入部もしないままジャパニーズ・イブニングは剣道をすることになった。練習しているうちにできるようになっていく自分にも興味がない。でも、不思議なことに試合に出してもらえるのが分かった時、嬉しかった。

そして、転んだ。血がドバドバ膝から出てとても痛かった。サージェリーに行くとドクターストップで練習に出られなくなって、練習に出られないと試合が出来なくなる。悔しかった。

胴着で筋トレするだけの日々が続いて、いよいよ本番だ。型と面打ちだけやり終えて練習時間になると僕はほっとした。やりすごしたことに満足していた。が、その満足感をはるかに超える気持ちが審判の「始め！」の合図とともに込み上がってきた。

「す…すごい…。」

高一の先輩対高二の先輩の戦いにはその一言以外何も出なかった。

以来、僕はずっと下がり面の練習ばかりしている。今では剣道の試合も見ていて楽しい。ジャパニーズ・イブニングのおかげで、僕は剣道に興味がわいた。

だから、来年のジャパニーズ・イブニングも剣道にして頑張っていきたい。

# 五月十一日　アウティング

## 大英博物館～美しく魅力的な展示物たち

高等部一年二組　松香　夢珠

ロゼッタストーン、ファラオ、ミイラ・・・たくさんの人たちの中をすりぬけながら、私たちはそれらを見た。

高校生活初めてのアウティングで、私たちは大英博物館を訪れた。一面真っ白の大広間で解散をすると、その広間からすぐのところに本物のロゼッタストーンがショー・ウィンドウに入れられて飾られている。大英博物館の目玉なのだろう。やはり有名なだけあって人だかりができていた。

その人だかりを通って、私たちはしおりを手に、目的の場所に向かった。スタンプラリーをしながら、『アウティングのしおり』のワークに書き込みをしなければならないので、ばたばたしていて見落としたところもあったかもしれないが、壁画などは本当に興味深かった。特に、惹きつけられたのはミイラだ。時間が許すならば、ずっと見ていたいほどだった。

今回はワークに指定されている通りの部屋を中心に見学をして、書き込みをしていたのだが、さすが大英博物館。広い。広すぎる。どこにどの部屋があるのかわからない。地図とにらめっこをしながら、部屋を探し当てるという感じで、ワークが完成する頃には、皆へとへとだった。あまった時間にはミュージアムショップを見たり、お土産を探したりした。そうしていると、ほのかに香る美味しそうなスイーツの香り。少しくたびれた身体を誘惑するその香りになんとか勝ちながら大英博物館の見学が終わった。大英博物館の後には、ご飯を食べたり、ショッピングをしたりして帰ってきた。

もしかするとショッピングやご飯、ロンドンの街で食べたお菓子などが印象に残っている人たちがいるかもしれない。だが、私にとっては大英博物館が一番だった。飾られている美しく魅力的な展示物たちをもっとじっくりと見たかった。

大英博物館を去る時に感じた気持ちは、教室に帰ってきてからも続いている。また何かの機会に大英博物館を訪れることができれば、今回以上に時間をかけて楽しみたい、と思う。今はその機会が待ち遠しくて仕方ない。

友達と一緒に行くアウティングは立教生の大きな楽しみのひとつです。新入生は初めてのロンドンでの班行動で緊張したかもしれません。

## あと10分

中学部二年　市川　幸之助

アウティング、今回はグリニッチ天文台に行く。あまりわからなかったけれど、みんなで調べた資料でバッチリ。テムズ川のクルーズはイギリスの素晴らしい景色を一望できた。

天文台の所では、たったあの一本の子午線で西経・東経で分かれていることにびっくりした。

プラネタリウムでは360度右を見ても左を見ても宇宙がある。私たちが暮らしているこの地球だけでなく、宇宙には地球以外にもこうやって人間が住んでいるのではないかとまた新しい疑問が頭に浮かぶ。

ショッピングではみんなでお目当てのものを買えてみんな満足だった。だけど面白かったのはここからだ。夕食をのんびり食べていたら集合するまであと10分だった。

「あっ、しまった。」

もう気付いたら遅かった。もうみんな風を切るような猛スピードで走る。

僕はこの走っている時間、今までにないくらい幸せな気持ちになった。なぜだろう？それはいつも一緒に生活している友達だ。

みんなと遊びながら笑いながら走るってこんなに気持ちよくて楽しいんだなと実感した。いつも当たり前のように一日一日を生活している。だけどここの当たり前は実は日本では当たり前じゃなかったし、こんな特別な経験ができるのはここ立教があるからだ。立教で生活できるのは家族や友達のおかげだ。

今回はグリニッチの天文台はとても素晴らしかった。本当に凄いと思えるのはやっぱり友達と一緒に見られるからだ。アウティングは普段見ることができないものを見るだけではなく、それをどう捉え感じるのかが大切だと私は思う。

**各学年の行き先**

- Ｐ６アランデル城など
- Ｍ１～３グリニッジ
- Ｈ１大英博物館
- Ｈ２ナショナルギャラリー
- Ｈ３チャーチル博物館

# The Championships Wimbledon

## ドキドキ・ワクワクのウィンブルドン

小学部六年　小林　直生

「プリーズ、サイン、プリーズ！」

精一杯腕をのばしてサインを求める。そうこうしていると、選手が笑顔で寄ってきてくれた。私は別にこの選手のファンでもないし、顔も見たことがない。それなのに選手は快くサインをしてくれた。なんだか申し訳なくなってきた。あとから知ったが、その選手はダニエル・タロウさんだったらしい。ちょっと有名な選手で、最近強くなってきているそうだ。ああ、朝早く起きたかいがあったな、と思った。だってここは、テニスの世界四大大会のひとつに入っているウィンブルドンだから。

六時間前。

「カラーン、カラーン。」いつもと同じように当直がならす鐘が軽やかな金属音をたてて私のことを起こしてくれる。

「ねむい。」

と、少し大きめの声を出して、どうにかして目を覚まそうと努力するがあくびが止まらない。カーテンを開けると、いつもなら青く澄み切った空が私に朝だと教えてくれるのに、今日は灰色の雲が空をうめつくしている。それで私はやっと今日がウィンブルドンだということを知る。

「四時半に起きなくても別に入場できるでしょ。」

と、ぼやきながらコーチに乗りこんだ。

そして、ウィンブルドンのチケットを買うために並ぶ場所に着くと、そこには長蛇の列ができていた。何よりおどろいたのが、並んでいた時に配られたキューチケットが四千番台後半だったからだ。四時間ほど待ってやっと入場できた。

入場してからは、とりあえずお土産を購入した。その後、名物のいちごと昼食をすませ、サインをもらうために中古のボールを買いに行き、そして今に至る。

こうして何時間も日に当たっているから絶対日焼けしてるなー、などと思ったが、それ以上にサインをもらえて幸せ、という気持ちの方が勝っていた。その気持ちのまま私の楽しいウィンブルドンは終わった。

今回のウィンブルドンは、私にとって記念すべき第一回目だった。想像以上に人がいてびっくりしたし、サインもたくさんもらった、ドキドキ・ワクワクのウィンブルドンはとても楽しかった。来年は最初から出待ちして、もっとたくさんの選手のサインをもらって楽しみたい。

## チャプレンより 第七回

**與賀田チャプレンは立教英国学院の学校つき牧師様です。礼拝や聖書の授業ではさまざまなお話をしてくださいます。**

五月一九日、ハリー王子とメーガン妃のロイヤルウェディングは世界でも話題になりました。早速、聖書の授業でロイヤルウェディングを見ることとしました。

イギリス王室の結婚式ですから、イギリス人のカンタベリー大主教が説教者に選ばれるのが常識的なことでした。しかし、説教者はアメリカ聖公会の初めての黒人の総裁主教であるマイケル・カリー主教様でした。

ハリー王子の結婚相手はアメリカ人女優のメーガン・マークルさんです。彼女の母親は、アフリカ系アメリカ人、奴隷の歴史を持つ黒人でした。

当然、この彼女の出自について、差別的な意見を持つ人は数多くいます。ネット上の英語の掲示板などを覗くと、そこには酷いヘイトが多数書き込まれています。

しかしなおも、この二人は結婚する道を選びました。

しかしなおも、英国王室は、この二人を祝福する道を選びました。

しかしなおも、教会は、神の名において、愛するということ、これを阻む人間の憎悪を否定しました。

ですからこの結婚式というのは、とても意味深いものです。説教者が、アメリカの黒人であるカリー主教様というのは、それだけで意味深さがわかるというものでしょう。キリスト教の結婚式とは、その二人を通して、私達全てが愛について、神の愛について学ぶ式なのです。

その説教はまず、黒人の権利獲得のために戦った、マーティン・ルーサー・キング牧師の引用から始まりました。

それは「私達は愛の力を、愛の贖いの力を探さなくてはならない。もしそれを見つけたのなら、私達は古い世界を新しい世界へとすることができるでしょう。愛こそが、唯一の道なのです」という言葉です。もし愛というものがあれば、自己中心的でない神と人とを愛する力があれば、世界は変わる、ということです。

そして、二十世紀の神学者、科学者、神秘家でもあるフランス人、テイヤール・ド・シャルダンの言葉が紐解かれました。シャルダンはこう述べます。

「私達の文明は、火を見つけることによって、火によってもたらされた。火があったから、青銅の時代が生まれ、鉄の時代が生まれ、産業革命が生まれ、様々なテクノロジーのもと、人間生活は良くなった。火によって、歴史は変えられた。火は、人間が発見したものの中で、歴史を変えた最大のものだ」

「だから今度は、今こそは、愛の火を、愛の炎を求め探さなくてはならない。そのことによって、私達の人間性は、私達の歴史はまた、新たに変えられていくことだろう」と。

この説教の翌日は、聖霊降臨日です。クリスマス、イースターと並ぶ、キリスト教の最も大切な日の一つです。

聖霊降臨日とは、一人一人の心の中に神の愛の力が与えられているということ、私達の魂の奥には、たとえ私達が普段それに気づくことがなくとも、愛の炎が灯されているということを覚える日なのです。

愛の炎とは、時には激しく燃えさかり世界を変える力を持ちうるものですが、普段はむしろ、ロウソクの灯火のようなものです。ロウソクの灯火は、近づかないと、そこに火があることに気づきにくいものです。私達が普段求める明るさの中では見つけにくいものです。私達が人生の暗闇の意味を知るとき、はじめて気づくものです。愛とは、そういうものです。

であれば、私達は何の考えもなしに、誰かの側を無視するかのように通り過ぎたり、大声をだして罵倒したり、自分は誰よりも明るさの中にいると思い込みたいがために、様々なことを傲慢にも誇っていいものではありません。

その時あなたは、誰かの心の灯火だけでなく、自分自身の灯火をも、そして神様の灯火をも、消してしまおうとすることになるのです。

説教の後、聖歌隊によって歌われた曲は公民権運動に使われた聖歌「stand by me」でした。

神様は常にあなたの隣りにおられます。あなたの側で、その灯火が消えそうなとき、その火を守って下さっています。

イエス様は言われます。たった一つの掟、「互いに愛し合いなさい」と言われます。それは難しいことではありません。常にあなたの側には、あなたを大切に思う人、家族、友人、そしてイエス様がおられるのですから。

互いの心の奥にある愛の灯火に目を留めましょう。共に歩みましょう。私達が誰かの側に寄り添う人として歩めることを、深く祈り願っております。

Mrs Davis が７月をもって離任されました。１４年間ありがとうございました。

４月に佐藤陽子先生（小学校・国語）塩谷知紘先生（数学）が着任されました。よろしくお願いします。

**立教英国学院の電子配信への切り替えにご協力ください。**
**ご意見、ご感想もこちらへどうぞ。**

publicrelations@rikkyo.uk